

鴨 田 遺 跡

第 28 次調査報告書

－市立長浜病院診療支援棟建設工事に伴う調査－

2014・3

滋賀県長浜市教育委員会

序 文

長浜市は滋賀県の北部に位置し、東に伊吹山を望み、西には琵琶湖と竹生島を望むなど風光明媚な都市です。

また、交通の要衝として、京と北陸を結ぶ北国街道や北国街道沿いの木之本から関ヶ原方面に向かって走る北国脇往還などが市内を走り、古来より人が行き来しました。陸路だけでなく海路も開けており、塩津港などの港では、京や北陸からの物資を積み下ろしたり乗せたりして船で物資を運ぶなど交通の要衝として栄えています。

平成に2度の合併を経験し、大きくなった長浜市は、市内に名勝史跡竹生島、史跡小谷城、史跡古保利古墳群、史跡北近江城館跡群などの史跡を始め、数多くの指定された文化財が存在します。指定された文化財以外にも多くの文化財を有し、埋蔵文化財に関しては800件を超える数の遺跡が長浜市内に存在します。

今回報告いたします鴨田遺跡は長浜市南部に位置し、弥生時代から出現する集落跡の遺跡です。長浜市教育委員会では市立長浜病院建設に伴い、平成5年に大戊亥遺跡 鴨田遺跡として調査を開始し、過去の調査においては周溝墓群や柱穴、溝状遺構が見つかった他、川跡からは大量の遺物を発見しています。

今回の調査は、以前調査を実施していなかった駐車場で実施しました。調査の結果、柱穴や土坑を確認するなど、多くの成果を得ることができました。

今回刊行いたしました報告書が地域の歴史を学ぶ資料となるとともに、地域の文化財をより深く理解していくうえで御活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、調査の実施並びに報告書の作成にあたりまして、御理解と御協力をいただきました土地所有者、地元の方々、並びに関係機関に対しまして厚くお礼申し上げます。

平成 26 年 3 月

長浜市教育委員会
教育長 北川 貢造

例 言

1. 本書は、平成 25 年度に長浜市教育委員会が実施した、市立長浜病院診療支援棟建設工事に伴う、長浜市大戌亥町 321-1 に所在する鴨田遺跡発掘調査報告書である。
2. 本調査は、長浜市教育委員会が市立長浜病院から依頼を受けて実施したものである。
3. 現地発掘調査を平成 25 年 10 月 17 日から平成 26 年 1 月 20 日にかけて実施し、整理調査については現地発掘調査終了後から平成 26 年 3 月の期間の中で実施した。
4. 発掘調査並びに整理調査は牛谷が担当した。
5. 本書で使用した方位は磁北、高さは東京湾平均海面高度、遺構埋土等の土色については標準土色帖に基づいている。
6. 本書の執筆および編集、遺物写真撮影は牛谷が行った。
7. 遺物や写真・図面については長浜市教育委員会が保管している。
8. 本調査に対しては、地元の方々並びに関係機関のご理解とご協力をいただいた。謝意を申し上げる。

目 次

序・例言・目次

第1章 調査の経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 発掘作業の経過	2
第3節 整理等作業の経過	2
第2章 遺跡の位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 調査の方法と成果	5
第1節 調査の方法	5
第2節 層序	5
第3節 発掘調査	7
(1) 遺構	7
(2) 遺物	19
第4章 総括	21

挿図目次

図1 調査位置図	1
図2 調査位置詳細図	1
図3 長浜市位置図	3
図4 鴨田遺跡と周辺の遺跡	3
図5 調査区分図	5
図6 東壁面土層堆積状況	5
図7 鴨田遺跡第28次調査 調査区平面図	7
図8 SK1平面・断面図	8
図9 SK2平面・断面図	8
図10 SK3平面・断面図	8
図11 SK4平面・断面図	9
図12 SK5平面・断面図	9
図13 SK6平面・断面図	9
図14 SK7平面・断面図	9
図15 SK8平面・断面図	10
図16 SK9平面・断面図	10
図17 SD1平面・断面図	11
図18 SD2平面・断面図	11
図19 SP断面図(1)	12

図 20	S P 断面図 (2)	13
図 21	S P 断面図 (3)	14
図 22	S P 断面図 (4)	15
図 23	S P 断面図 (5)	16
図 24	S P 断面図 (6)	17
図 25	出土遺物実測図	19
図 26	周辺調査状況	22

表目次

表 1	土色・土質一覧	6
表 2	S P 遺構規模一覧表	18
表 3	鴨田遺跡第 28 次調査遺物観察表	20

写真目次

写真 1	重機掘削状況	2
写真 2	作業状況 (遺構検出)	2
写真 3	遺構掘削状況	2
写真 4	平成 5 年度大戊亥遺跡 鴨田遺跡調査	3
写真 5	南壁面写真	5

図版目次

図版 1	調査前状況 (北から)	図版 7	出土遺物 1
	完掘状況全景 (南上から)		出土遺物 2
図版 2	遺構完掘状況 東部 (北から)		出土遺物 3
	遺構完掘状況 中央部 (北から)		出土遺物 4
	遺構完掘状況 西部 (北から)		出土遺物 5
図版 3	遺構完掘状況 東部 (南から)		出土遺物 6
	遺構完掘状況 中央部 (南から)		出土遺物 7
	遺構完掘状況 西部 (南から)		
図版 4	S K 1 土層断面 (東から)		
	S K 2 土層断面 (南から)		
	S K 3 土層断面 (北から)		
図版 5	S K 4 土層断面 (北から)		
	S K 5 土層断面 (北から)		
	S K 6 土層断面 (東から)		
図版 6	S K 7 土層断面 (西から)		
	S K 8 土層断面 (南から)		
	S K 9 土層断面 (北から)		

第1章 調査の経過

第1節 調査に至る経緯

本調査は、診療支援棟建設に伴う発掘調査で、平成 25 年 9 月 3 日に原因者から届出が有り、協議の結果、過去に調査した場所以外の本発掘調査を実施することになった。

調査は、平成 25 年 10 月 17 日から実施し、調査地から溝、柱穴、土坑を検出した。

対象面積 1,000 m²の内、過去に調査した場所を除き、破壊を免れないと判断した 640 m²について本発掘調査を実施することとなった。

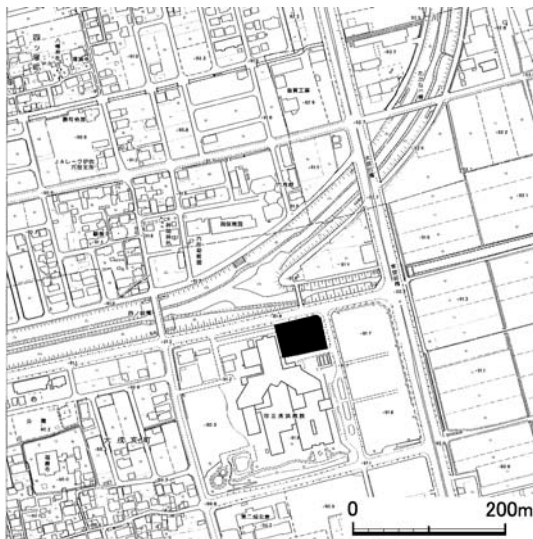


図1 調査位置図

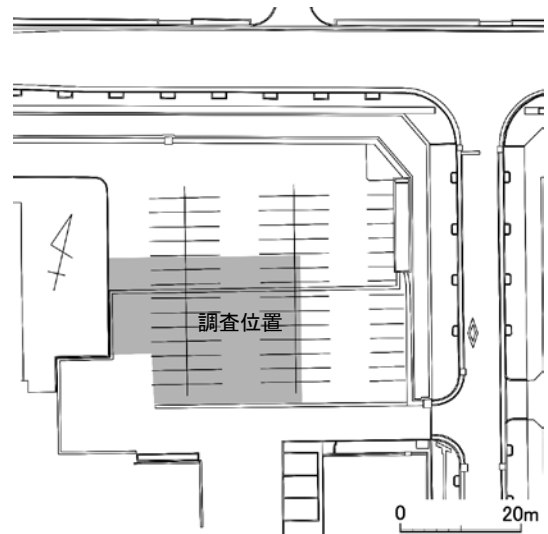


図2 調査位置詳細図

本事業の事務局は次のとおりである。

平成 25 年度

長浜市教育委員会

教育長	北川 貢造
教育部長	中井 正彦
教育総務課	理 事 福井 清和
文化財保護センター	所 長 森口 訓男
	参 事 黒坂 秀樹
	主 幹 池寄 陽一（調整）
	主 査 牛谷 好伸（現地担当）

第2節 発掘作業の経過

本発掘調査は、平成25年10月17日から平成26年1月20日までの期間で実施した。

調査は、調査対象区全体を重機によって遺構面直上まで掘削を行った後、人力による遺構検出作業、遺構の半截・遺構完掘・全景写真・遺構断ち割りの順で行い、平面および断面実測、遺構写真等のデータ収集作業、出土遺物の取り上げは工程ごとに行った。調査終了後は埋め戻しを行い、原因者に引き渡した。



写真1 重機掘削状況



写真2 作業状況(遺構検出)



写真3 遺構掘削状況

第3節 整理等作業の経過

整理作業は、現地調査終了後から平成26年3月までの期間で実施した。

出土した遺物には土器洗浄、マーキングを施し、出土地点、出土点数等を遺物台帳に記入した後、報告書に掲載するものを選別した。

報告書掲載遺物の選別は、残存状態のよい遺物を中心に行い、選別後、実測図の作成、遺物観察表の作成を行った。

上記作業終了後、報告書に掲載する遺物の最終選別を行い、掲載遺物についてはデジタルトレース作業並びに写真撮影を行った。

土層堆積状況の注記については本文中で統一した番号として使用できるように整理を行い、土色・土質一覧表(表1)としてまとめた。

現地で実測した図面はデジタルトレースを行い、必要に応じて図面の合成や編集作業を行った。写真に関しては、調査内容が分かるように選別し、写真の内容・撮影方向が分かるように写真図版としてまとめた。

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

滋賀県長浜市は、滋賀県の北部に位置し、姉川・高時川・余呉川等により形成された豊かな湖北平野、周囲には伊吹山系の山や琵琶湖に面している。また、琵琶湖には竹生島を擁し、変化に富んだ自然環境を持つ。

市域は東西 25km、南北 40km、総面積は 680.79k m²（琵琶湖を含む）で、人口は 122,783 人（平成 26 年 1 月 1 日現在）である。

地質は古生層で約 2～3 億年前の海底に堆積した硬い地層からできており、特に平野部では砂岩系や粘板岩が分布している。

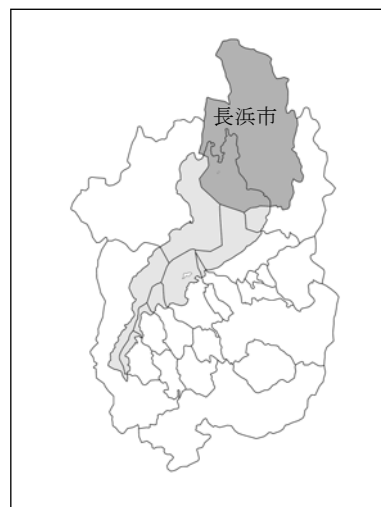


図3 長浜市位置図

第2節 歴史的環境

鴨田遺跡は、弥生時代の集落跡とされる遺跡で、長浜市大戌亥町を中心に広がる。

付近には多くの遺跡が広がり、西には大戌亥遺跡、南には下坂中町遺跡が広がる。

鴨田遺跡の調査は古く、昭和 60 年度に、ほ場整備に伴う調査で弥生時代中期から後期にかけての方形周溝墓を 5 基検出したほか、弥生時代から古墳時代の水路、土坑を検出している。

鴨田遺跡の時代は、弥生時代中期から古墳時代初頭、平安時代から室町・鎌倉時代に推定されている。弥生時代中期になって成立する鴨田遺跡であるが、五井戸川と薬師堂川がつくる舌状台地に位置する。遺跡の成立後は古墳時代前期まで盛行する。

この付近には弥生時代当時、4つの勢力があり、1つは川崎遺跡を母体としながら系譜を引く大塚遺跡、越前塚遺跡。2つ目は、川崎遺跡から分村した宮司遺跡を母体とする宮司東遺跡、正言寺遺跡。3つ目は大辰巳遺跡を母体として分村した鴨田遺跡、大戌亥遺跡、高橋遺跡。4つ目は川崎遺跡を母体と

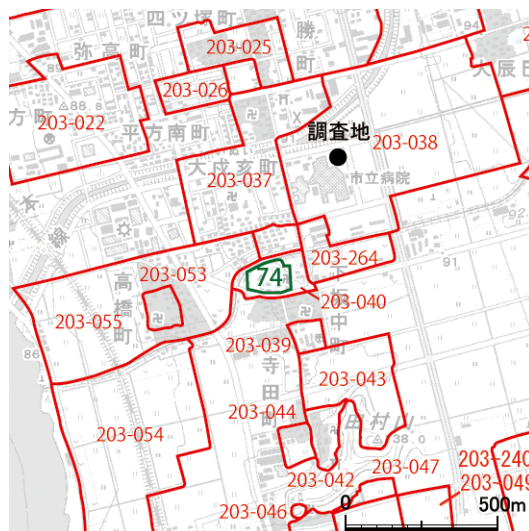


図4 鴨田遺跡と周辺の遺跡

遺跡番号	遺跡名
203 022	塚町遺跡
203 025	福満寺遺跡
203 026	経田寺遺跡
203 037	大戌亥遺跡
203 038	鴨田遺跡
203 039	下坂中村城遺跡
203 040	下坂城遺跡
203 042	下坂寺田城遺跡
203 043	寺田遺跡
203 044	安導寺遺跡
203 046	田村山古墳
203 047	金光寺遺跡
203 049	田村遺跡
203 053	高橋城遺跡
203 054	高橋南遺跡
203 055	高橋遺跡
203 240	金剛寺遺跡
203 264	下坂中町遺跡



写真4 平成5年度大戌亥遺跡 鴨田遺跡調査

しながら独自に発展を続ける塚町遺跡である。

付近には南側に位置する田村山の上に田村山古墳や集落跡として大戌亥遺跡（弥生時代～平安時代）、高橋遺跡（縄文時代～古墳時代）、高橋南遺跡（弥生時代・古墳時代）、下坂中町遺跡（中世）、田村遺跡（その他）が立地する。

また、寺院跡として福満寺遺跡、（弥生時代、中世、その他）経田寺遺跡、（その他）寺田遺跡、（その他）、安導寺遺跡、（その他）、金光寺遺跡、（その他）、金剛寺遺跡、（その他）が立地する。

城跡として下坂中村城遺跡、（中世から近世）、下坂城遺跡、（縄文時代～中世）、下坂寺田城遺跡、（中世）、高橋城遺跡、（中世）が立地する。下坂城遺跡は下坂氏の城館で、国の史跡北近江城館跡群下坂氏館跡に指定されている。今も堀には水が流れ、2重の土塁に囲まれた遺構が当時の様子を今に伝える。

第3章. 調査の方法と成果

第1節 調査の方法

調査は平成25年10月17日から開始し、平成26年1月20日まで実施した。面積640㎡の調査地である。現地はアスファルト敷きの駐車場であったため、フェンスを設置した後、アスファルトが除去されてから、現地調査に入った。

調査区は4mおきに6区画に分け、重機を用い、西側から東に掘削を行い、掘削が終了したところから順に人力で遺構掘削を行った。

基本的な調査方法は、柱穴は半截、土坑については原則四分法を用いて断面実測、写真撮影を行った後、遺構完掘を行った。

遺物の取り上げ方法は、前述の区画分けで取り上げる他、遺構、層位ごとに取り上げを行った。

写真撮影は、遺構検出、遺構断面、全体の完掘状況の時点で35mmの白黒フィルム、リバーサルフィルムを用いて撮影した。なお、遺構等の埋土の土色・土質については表1を参照されたい。

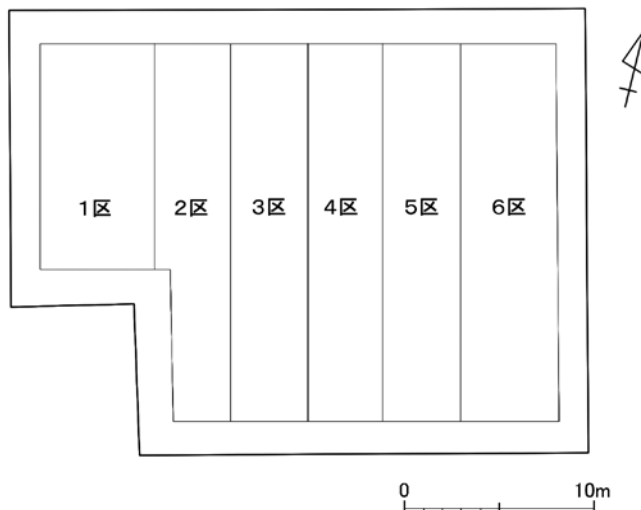


図5 調査区分図

第2節 層序

現況は、駐車場として利用されている場所で、調査地は南側に位置する救急車搬入口と同じ高さである。駐車場は中央に排水溝があり、中央に向かって水勾配がとられている。

調査地の土層堆積は、1層目の深さは、現況面～0.92mで10YR2/1 黒色中礫（51 造成土）、2層目の深さは0.92m～1.02mで7.5Y4/1 灰色中礫混極細粒砂（20）、3層目の深さは1.02m以下で10YR4/4 褐色極細粒砂（33 地山）である。

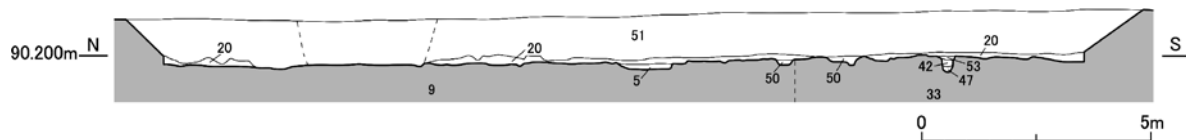


図6 東壁面土層堆積状況



写真5 南壁面写真

表1 土色・土質一覧

番号	土色帖記号	土色	土質	備考
1	5Y4/1	灰色	粗粒シルト	
2	7. 5Y4/1	灰色	極細粒砂	
3	5Y5/3	灰オリーブ色	粗粒シルト	
4	2. 5Y3/1	黒褐色	粗粒シルト	
5	2. 5Y4/2	暗灰黄色	極細粒砂	
6	2. 5Y4/3	オリーブ褐色	極細粒砂	地山
7	2. 5Y3/2	黒褐色	極細粒砂	
8	2. 5Y3/1	黒褐色	極細粒砂	
9	5Y4/2	灰オリーブ色	細粒砂	地山
10	5Y4/1	灰色	中粒砂混極細粒砂	
11	7. 5Y4/2	灰オリーブ色	中粒砂	
12	5Y4/2	灰オリーブ色	中粒砂	
13	5Y3/1	オリーブ黒色	粗粒シルト	
14	5Y3/1	オリーブ黒色	極細粒砂	
15	5Y2/2	オリーブ黒色	極細粒砂	
16	5Y3/2	オリーブ黒色	粗粒シルト	
17	10YR3/1	黒褐色	極細粒砂	SK 8 埋土
18	2. 5Y3/3	暗オリーブ褐色	極細粒砂	
19	5Y3/2	オリーブ黒色	極細粒砂	
20	7. 5Y4/1	灰色	中礫混極細粒砂	
21	2. 5GY3/1	暗オリーブ灰色	極細粒砂	
22	7. 5GY4/1	暗緑灰色	中粒砂	
23	10Y4/1	灰色	中粒砂混極細粒砂	
24	7. 5Y4/1	灰色	粗粒砂混極細粒砂	
25	5Y4/1	灰色	極細粒砂	SK 9 埋土
26	10YR4/1	褐色	極細粒砂	
27	5Y2/1	黒色	極細粒砂	SK 1・SK 3 埋土
28	10YR2/1	黒色	極細粒砂	
29	10Y3/2	オリーブ黒色	中粒砂	
30	7. 5Y4/1	灰色	中粒砂	
31	7. 5Y2/1	黒色	粗粒シルト	
32	10YR3/4	暗褐色	極細粒砂	
33	10YR4/4	褐色	極細粒砂	地山
34	10GY4/1	暗緑灰色	中粒シルト	
35	10YR2/1	黒色	極細粒砂 7. 5Y4/1 灰色極細粒砂混じる	SK 2 埋土
36	7. 5Y4/1	灰色	粗粒シルト	
37	7. 5Y3/1	オリーブ黒色	粗粒シルト	
38	2. 5GY4/1	暗オリーブ灰色	粗粒シルト	
39	10YR4/2	灰黄褐色	極細粒砂	SK 6 埋土
40	5Y4/2	灰オリーブ色	極細粒砂	
41	2. 5Y3/1	黒褐色	粗粒砂混極細粒砂	
42	10YR3/2	黒褐色	極細粒砂	
43	2. 5Y2/1	黒色	極細粒砂	SK 4 埋土
44	10YR3/1	黒褐色	粗粒砂混極細粒砂	SK 5 埋土
45	7. 5Y3/1	オリーブ黒色	極細粒砂	
46	7. 5Y4/2	灰オリーブ色	極細粒砂	
47	2. 5Y3/2	黒褐色	粗粒シルト	
48	5Y5/2	灰オリーブ色	極細粒砂	
49	2. 5Y4/1	黄灰色	極細粒砂	
50	2. 5Y3/3	暗オリーブ褐色	粗粒砂混極細粒砂	SK 7 埋土
51	10YR2/1	黒色	中礫	造成土
52	5Y4/2	灰オリーブ色	粗粒シルト	
53	5Y5/1	灰色	極細粒砂	
54	2. 5Y3/3	暗オリーブ褐色	細粒砂	

第3節 発掘調査

(1) 遺構

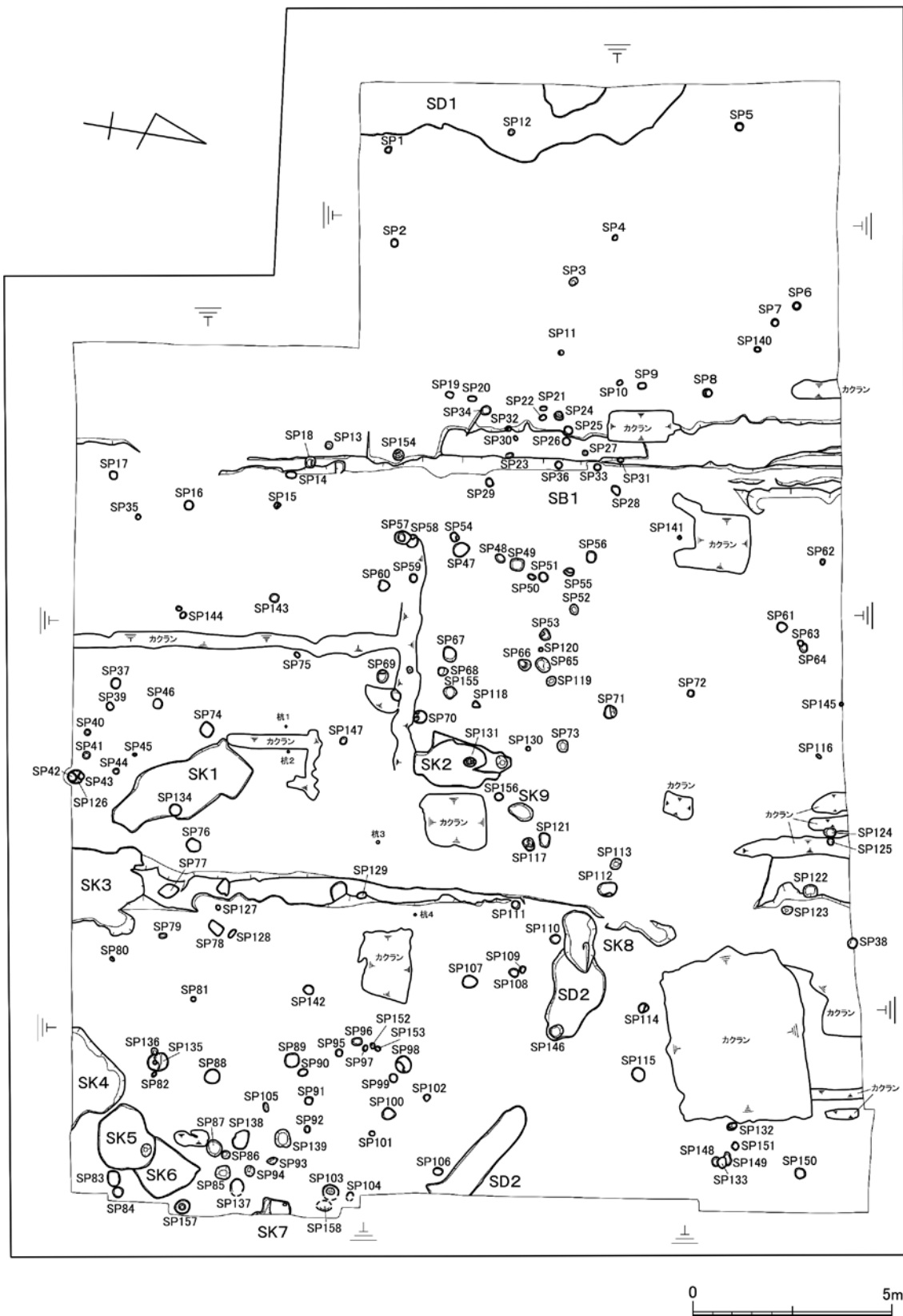


図7 鴨田遺跡第28次調査 調査区平面図

SK1

調査地の南側に位置し、平面形態は楕円形を呈する土坑である。

長辺 3.5m×短辺 1.48m、深さは 0.1mを測る。土層は単層で底部は平たい。

遺物は土師器と須恵器が出土している。

SK2

調査地の中央に位置し、平面形態は楕円形を呈する土坑である。

長辺 2.82m×短辺 1.08m、深さは 0.18mを測る。土層は単層で底部は平たい。

遺物は土師器と須恵器が出土している。

SK3

調査地の中央に位置し、平面形態は楕円形を呈する土坑である。

長辺 1.74m×短辺 1.23m以上、深さは 0.14mを測る。土層は単層で底部は平たい。

遺物は土師器と須恵器が出土している。

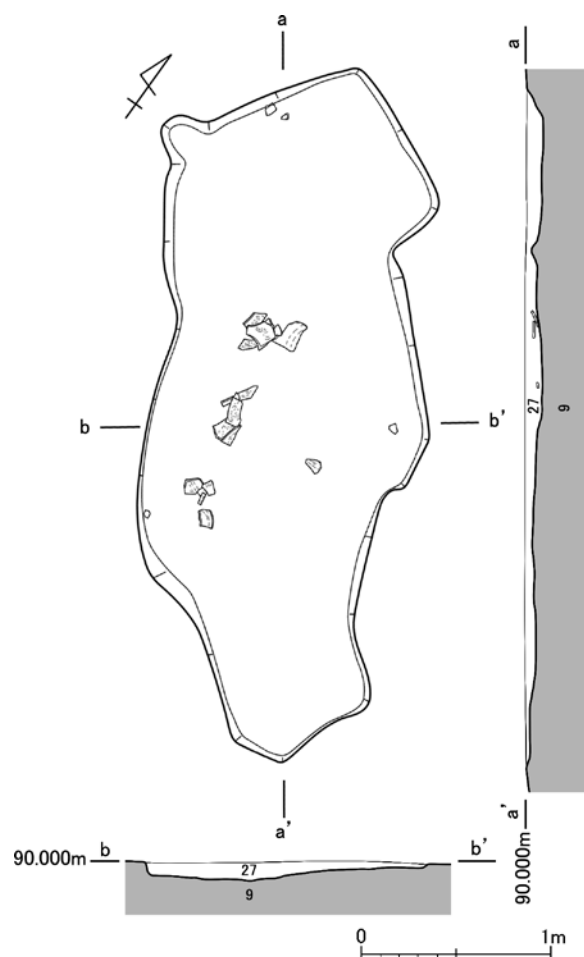


図8 SK1 平面・断面図

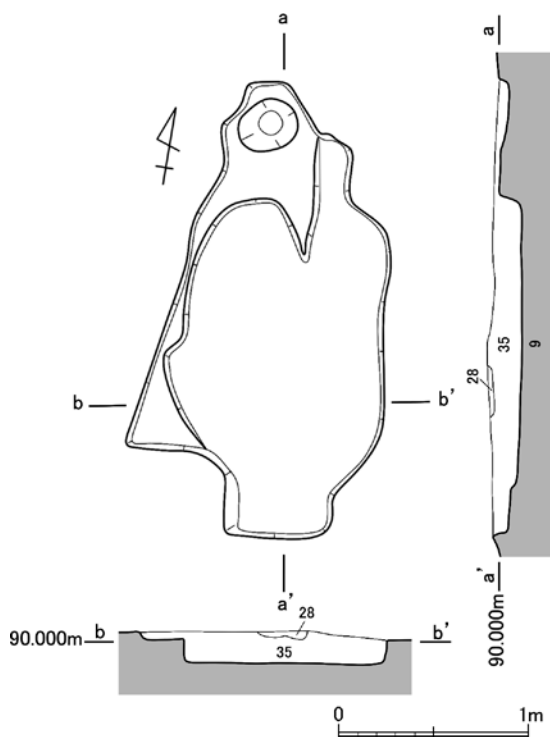


図9 SK2平面・断面図

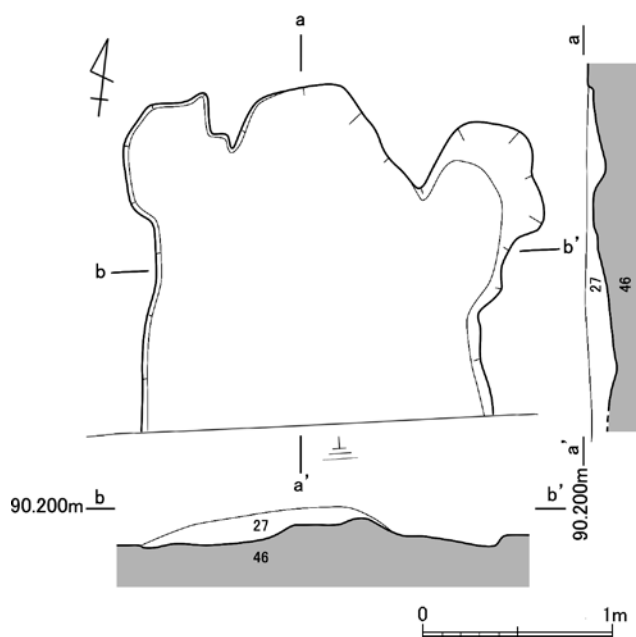


図10 SK3平面・断面図

SK 4

調査地の東側に位置し、平面形態は半円形である。遺構の南側は調査地外である。

長辺 2.54m×短辺 1.3m以上、深さは 0.1mを測る。土層は単層で底部は平たい。

遺物は土師器が出土している。

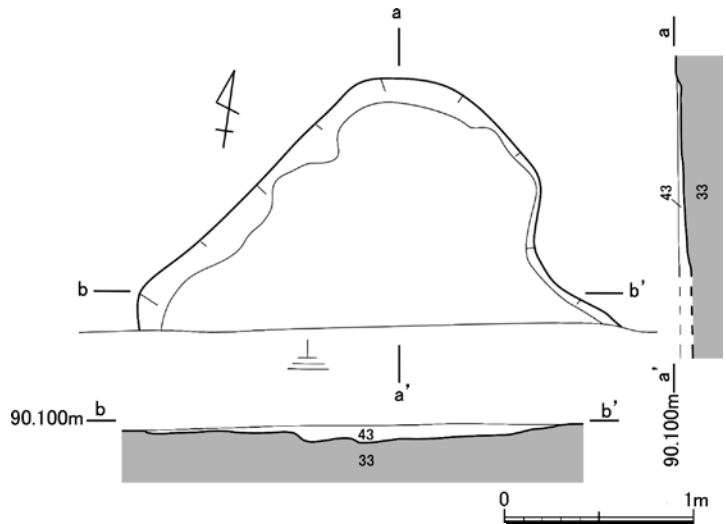


図 11 SK4平面・断面図

SK 5

調査地の東側に位置し、平面形態は円形を呈する土坑である。SK 6を切る。

長辺 1.62m×短辺 1.4m、深さは 0.06mを測る。土層は単層で底部は平たい。

遺物は土師器が出土している。

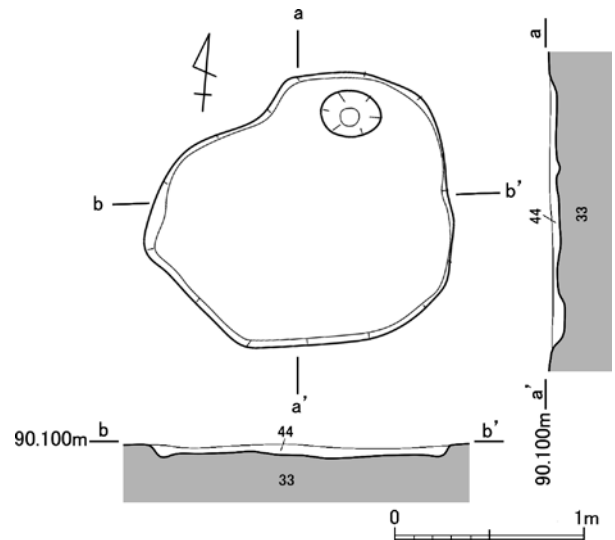


図 12 SK5平面・断面図

SK 6

調査地東端に位置し、平面形態は円形を呈する土坑である。

長辺 1.46m×短辺 1.44m、深さ 0.05mを測る。土層は単層で底部は平たい。

遺物は土師器が出土している。

SK 7

調査地東端に位置し、平面形態は方形を呈する土坑である。

長辺 0.65m×短辺 0.34m以上、深さ 0.2mを測る。土層は単層で底部は平たい。

遺物は土師器が出土している。

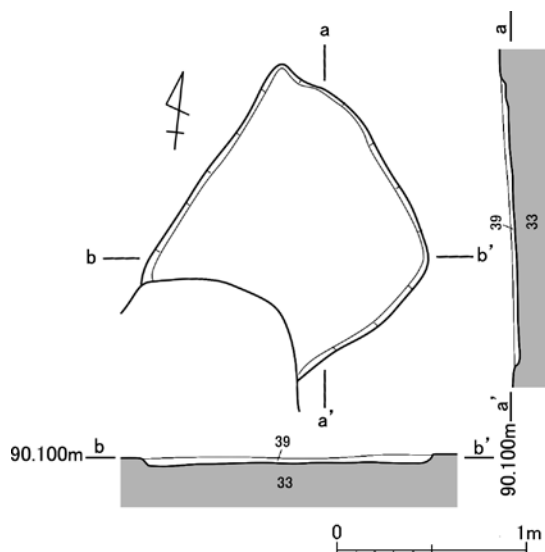


図 13 SK6平面・断面図

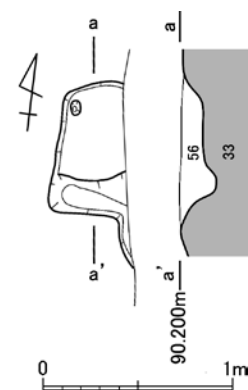


図 14 SK7平面・断面図

SK8

調査地東側に位置し、平面形態は楕円形を呈する土坑である。

長辺 1.6m×短辺 0.72m、深さ 0.12mを測る。

遺物は土師器や須恵器が出土している。

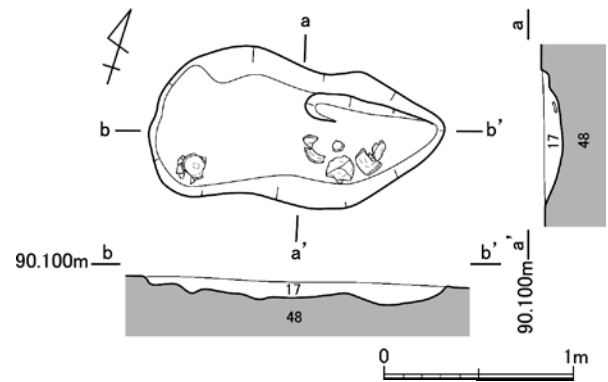


図 15 SK8平面・断面図

SK9

調査地東側に位置し、平面形態は楕円形を呈する土坑である。

長辺 0.6m×短辺 0.4m、深さ 0.08mを測る。

遺物は土師器が出土している。

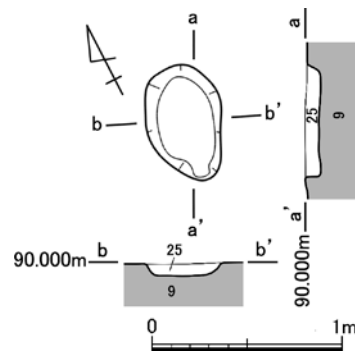


図 16 SK9平面・断面図

SD 1

調査地の西端に位置し、南北方向に延びる溝である。

検出した溝の総長は8 mを測り、幅 1.94m、深さ 0.32mを測る。

埋土は単層で底部は平たい。

遺物は出土していない。

SD 2

調査地東端に位置し、北西から南東方向に延びる溝である。西側にも延び、SK 8に切られている。

幅 0.72m、深さ 0.08mで長さは2.77m以上である。

遺物は土師器が出土している。

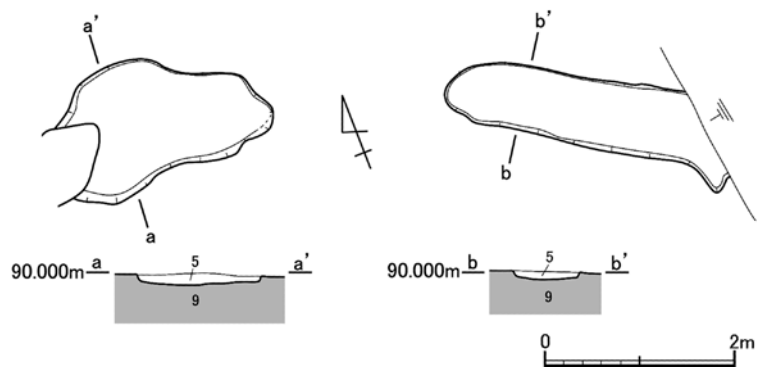


図 18 SD2平面・断面図



図 17 SD1平面・断面図

柱穴

柱穴（SP）は158基検出している。埋土は様々で、直径も0.09m～0.51mと様々である。掘立柱建物跡を構成していたと考えられるが、遺構の残りが悪く全体像が見えない状況である。しかし、調査地中央付近や東側にまとまって柱穴があることより、このあたりに建物が複数時期にわたって建て替えられながら存在していたと推測はできる。

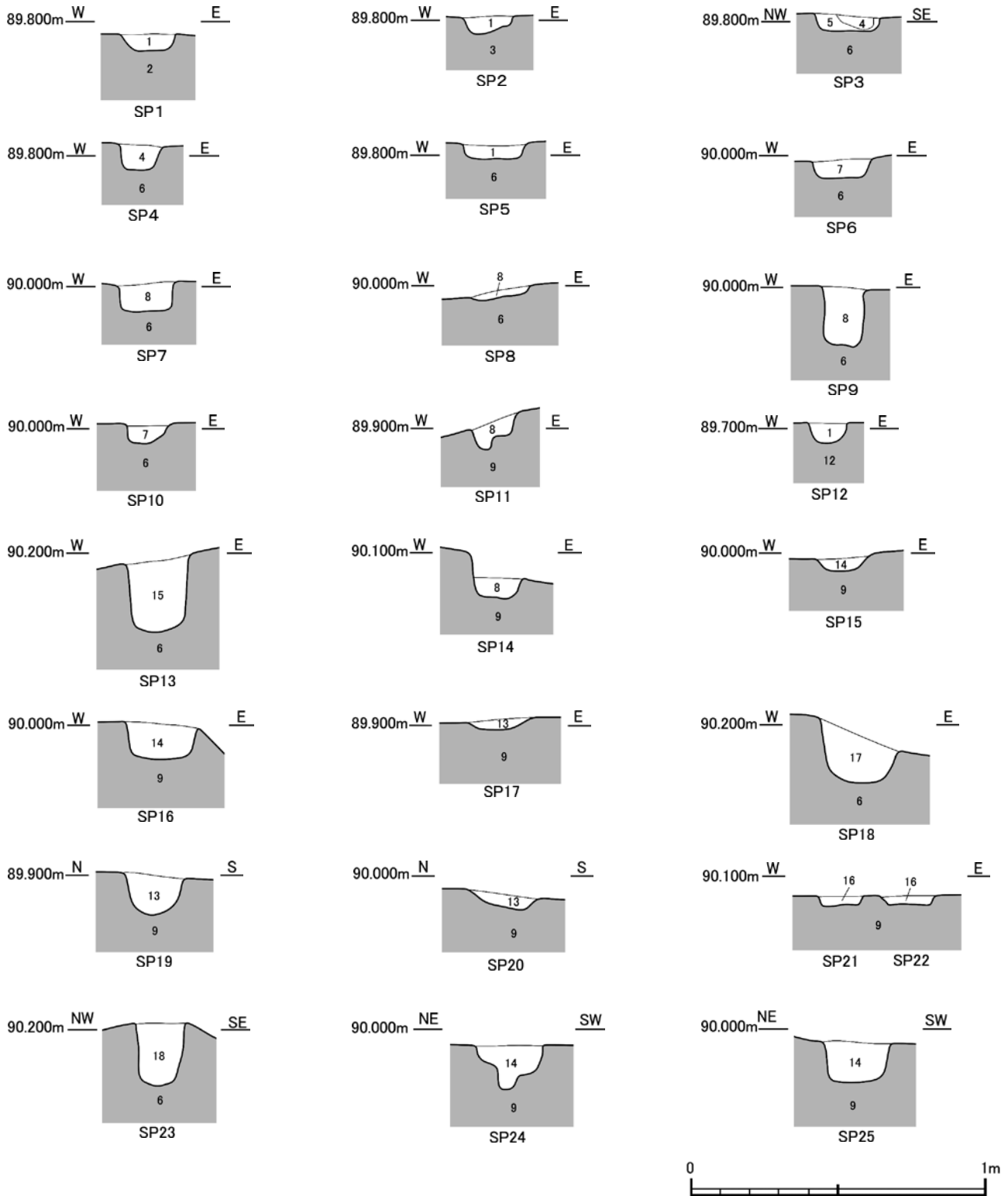


図 19 SP 断面図(1)

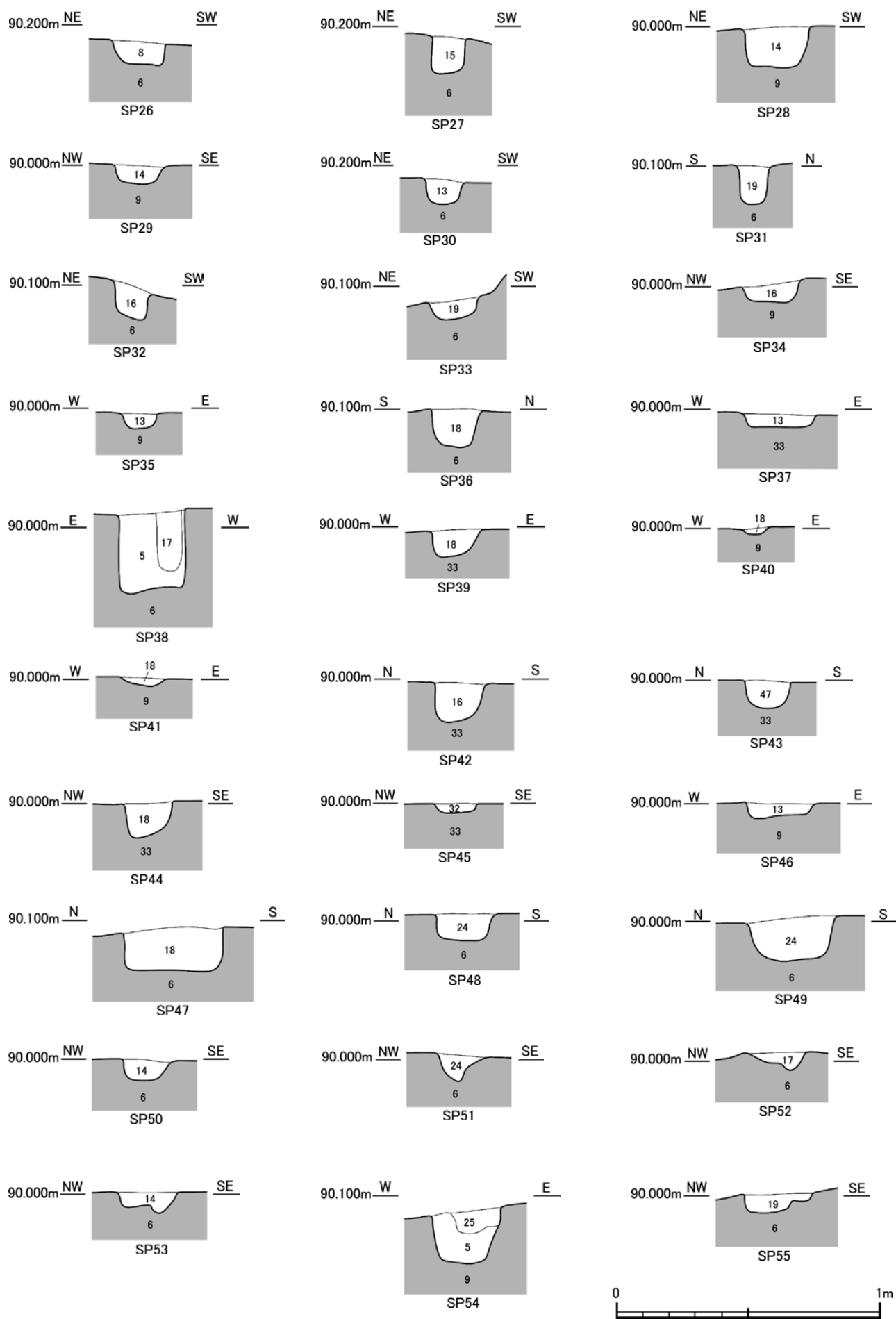


图 20 SP 断面图(2)

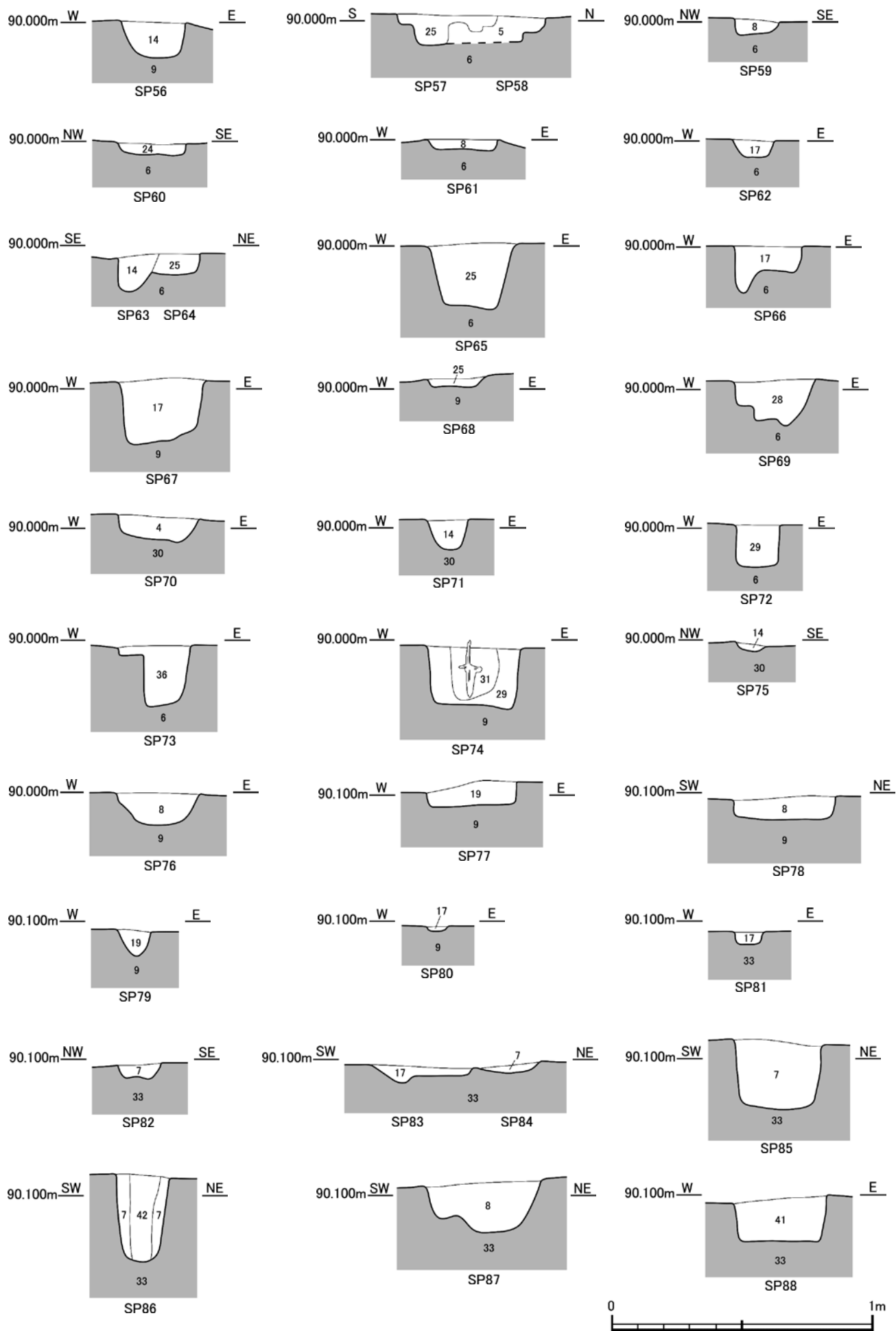


图 21 SP 断面图(3)



图 22 SP 断面图(4)

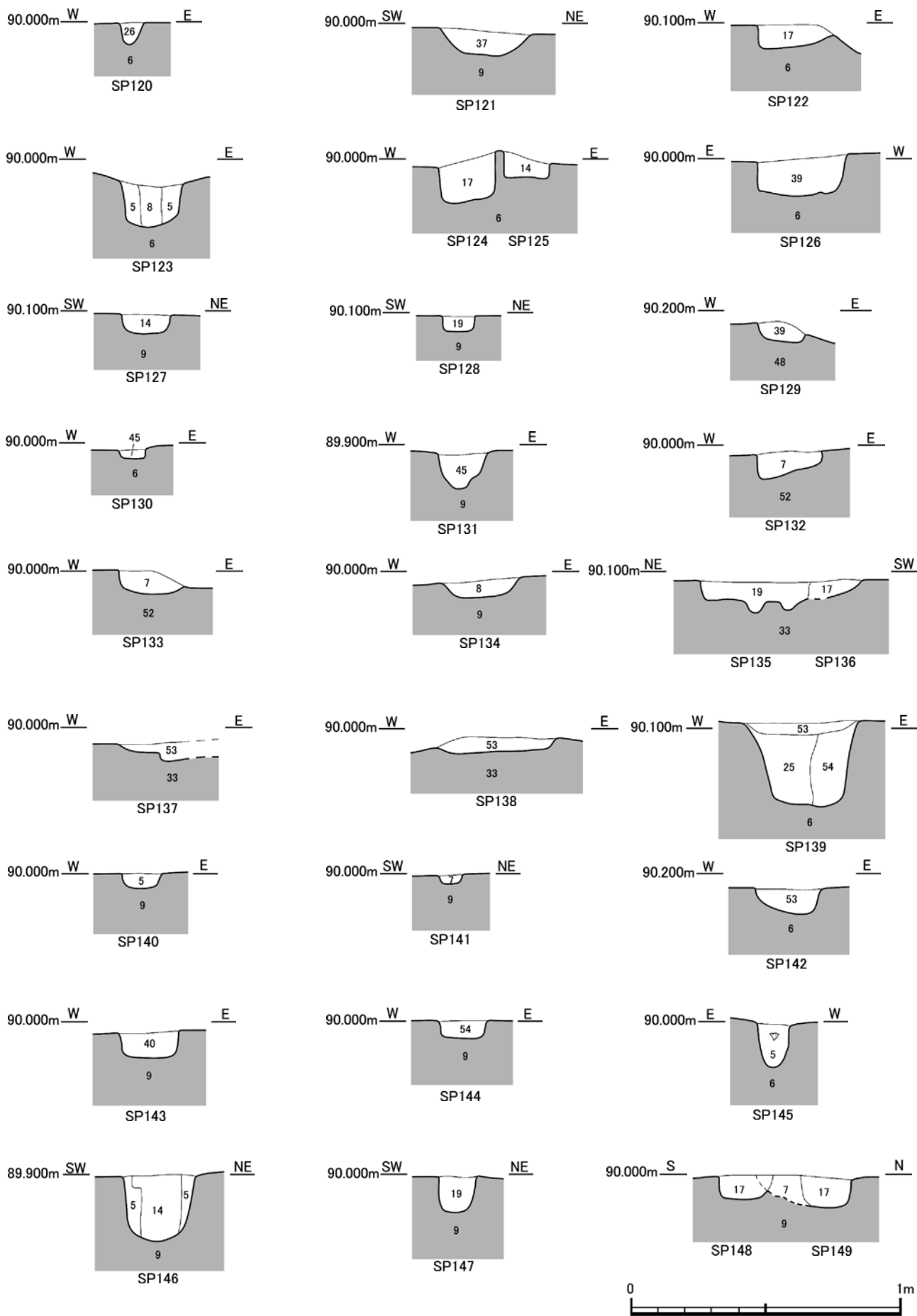


图 23 SP 断面图(5)

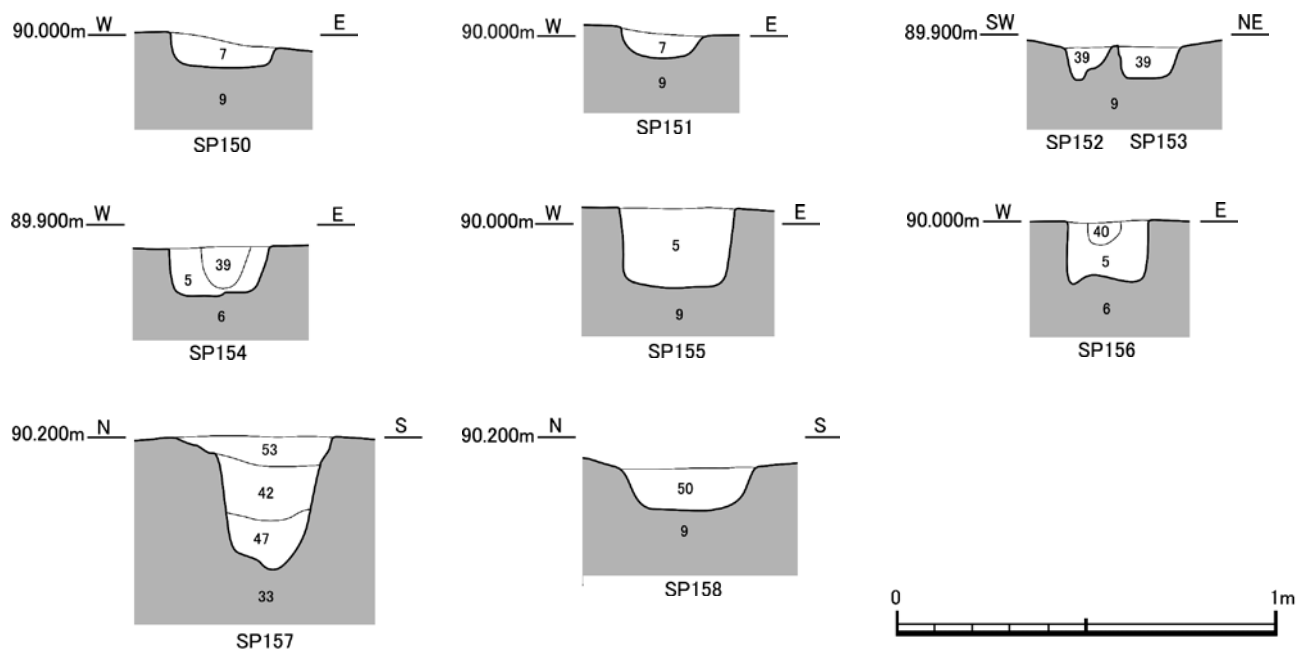


图 24 SP 断面图(6)

表2 SP 遺構規模一覧表

遺構名	幅(m)	深さ(m)
SP1	0.16	0.05
SP2	0.21	0.06
SP3	0.23	0.06
SP4	0.15	0.08
SP5	0.22	0.04
SP6	0.20	0.06
SP7	0.18	0.09
SP8	0.20	0.04
SP9	0.20	0.21
SP10	0.14	0.07
SP11	0.16	0.12
SP12	0.15	0.07
SP13	0.21	0.27
SP14	0.25	0.08
SP15	0.17	0.04
SP16	0.24	0.12
SP17	0.22	0.04
SP18	0.28	0.22
SP19	0.20	0.14
SP20	0.22	0.06
SP21	0.17	0.04
SP22	0.18	0.03
SP23	0.19	0.20
SP24	0.24	0.15
SP25	0.23	0.14
SP26	0.18	0.25
SP27	0.14	0.14
SP28	0.27	0.16
SP29	0.22	0.07
SP30	0.13	0.10
SP31	0.15	0.15
SP32	0.16	0.15
SP33	0.18	0.08
SP34	0.25	0.22
SP35	0.14	0.06
SP36	0.21	0.15
SP37	0.27	0.05
SP38	0.24	0.33
SP39	0.20	0.10
SP40	0.16	0.03
SP41	0.19	0.04
SP42	0.23	0.15
SP43	0.17	0.11
SP44	0.15	0.13
SP45	0.10	0.03
SP46	0.25	0.05
SP47	0.38	0.16
SP48	0.24	0.10
SP49	0.34	0.17
SP50	0.18	0.08
SP51	0.23	0.11
SP52	0.26	0.06
SP53	0.27	0.08

遺構名	幅(m)	深さ(m)
SP54	0.24	0.26
SP55	0.26	0.07
SP56	0.30	0.14
SP57	0.40	0.12
SP58	0.32	0.10
SP59	0.22	0.05
SP60	0.28	0.04
SP61	0.25	0.04
SP62	0.14	0.07
SP63	0.16	0.14
SP64	0.21	0.08
SP65	0.36	0.25
SP66	0.33	0.18
SP67	0.36	0.24
SP68	0.24	0.04
SP69	0.33	0.18
SP70	0.34	0.10
SP71	0.31	0.12
SP72	0.17	0.16
SP73	0.29	0.23
SP74	0.39	0.24
SP75	0.16	0.03
SP76	0.36	0.12
SP77	0.51	0.09
SP78	0.39	0.09
SP79	0.20	0.10
SP80	0.12	0.02
SP81	0.13	0.05
SP82	0.15	0.06
SP83	0.40	0.07
SP84	0.26	0.04
SP85	0.36	0.27
SP86	0.21	0.33
SP87	0.41	0.20
SP88	0.37	0.18
SP89	0.35	0.14
SP90	0.26	0.13
SP91	0.21	0.14
SP92	0.18	0.04
SP93	0.26	0.04
SP94	0.26	0.13
SP95	0.18	0.08
SP96	0.25	0.18
SP97	0.14	0.03
SP98	0.22	0.19
SP99	0.43	0.12
SP100	0.31	0.10
SP101	0.15	0.06
SP102	0.16	0.06
SP103	0.39	0.18
SP104	0.17	0.16
SP105	0.22	0.06
SP106	0.24	0.13

遺構名	幅(m)	深さ(m)
SP107	0.36	0.14
SP108	0.23	0.14
SP109	0.19	0.14
SP110	0.26	0.07
SP111	0.21	0.12
SP112	0.46	0.22
SP113	0.28	0.17
SP114	0.26	0.14
SP115	0.33	0.13
SP116	0.14	0.03
SP117	0.32	0.17
SP118	0.19	0.23
SP119	0.27	0.09
SP120	0.11	0.08
SP121	0.36	0.11
SP122	0.34	0.08
SP123	0.25	0.14
SP124	0.28	0.19
SP125	0.18	0.10
SP126	0.33	0.14
SP127	0.14	0.07
SP128	0.23	0.06
SP129	0.23	0.08
SP130	0.11	0.04
SP131	0.30	0.13
SP132	0.26	0.10
SP133	0.27	0.08
SP134	0.30	0.07
SP135	0.51	0.12
SP136	0.17 以上	0.07
SP137	0.32 以上	0.07
SP138	0.44	0.05
SP139	0.43	0.32
SP140	0.15	0.05
SP141	0.09	0.04
SP142	0.26	0.09
SP143	0.23	0.09
SP144	0.17	0.06
SP145	0.09	0.17
SP146	0.34	0.25
SP147	0.20	0.13
SP148	0.23	0.09
SP149	0.34	0.11
SP150	0.28	0.09
SP151	0.20	0.07
SP152	0.14	0.09
SP153	0.14	0.08
SP154	0.27	0.12
SP155	0.32	0.20
SP156	0.24	0.16
SP157	0.37	0.35
SP158	0.35	0.11

(2) 遺物

出土した遺物は、コンテナ 5 箱分で土師器・須恵器・石器と様々であるが、大半は土師器の細片であった。

詳細については表 3 鴨田遺跡第 28 次調査遺物観察表を参照されたい。

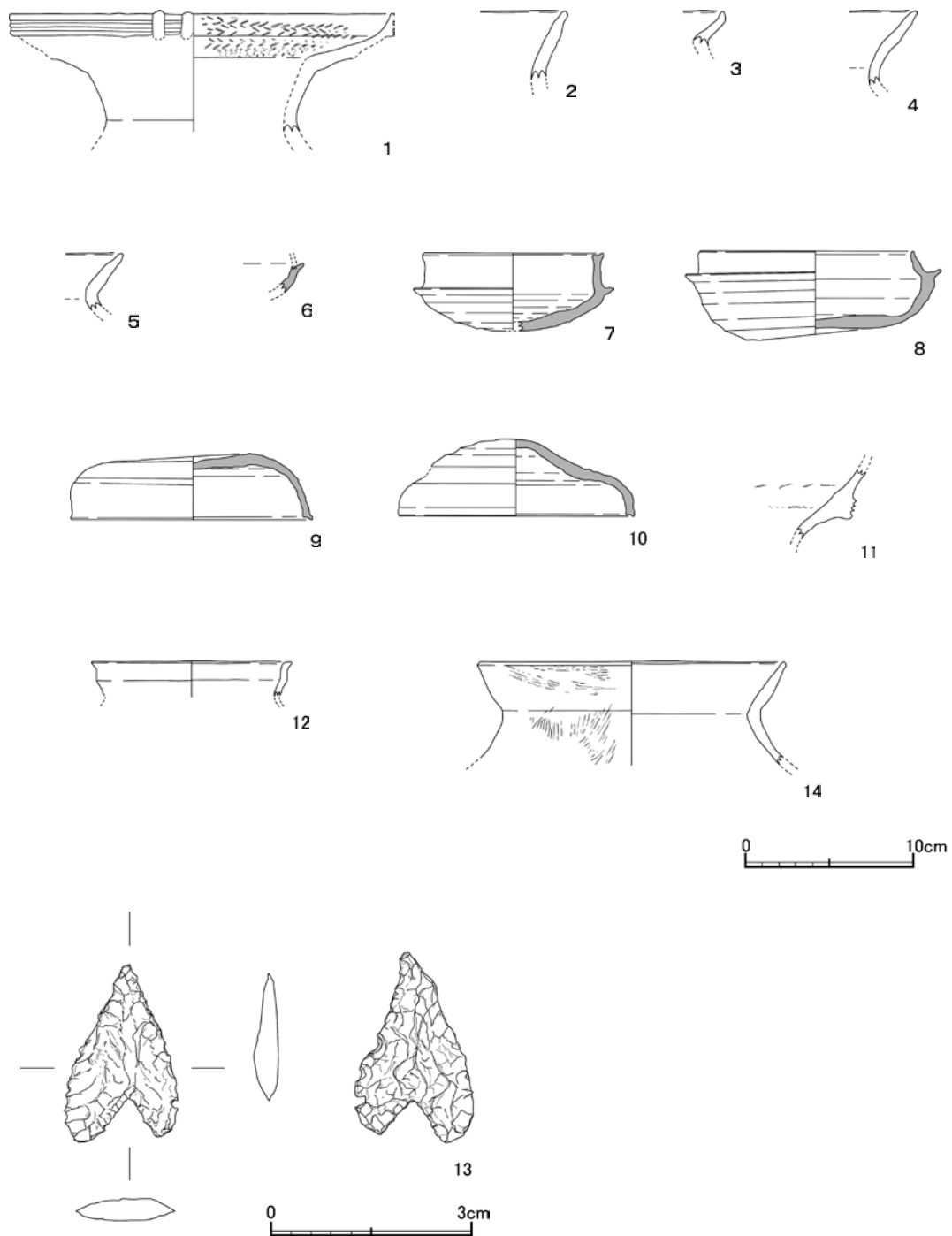


図 25 出土遺物実測図

表3 鴨田遺跡第28次調査遺物観察表

No.	出土遺構	器種	器形	色調			胎土	焼成	調整		法量	備考
				外面	内面	器肉			外面	内面		
1	4区SK1	土師器	壺	5YR6/8 橙色	5YR6/8 橙色	10YR4/1 褐灰色	粗粒砂を含む 密	良	凹線文 ナデ	列点文 ナデ	復元口径 24.0cm 残存高 7.2cm	反転復元(口縁部の み)外面に貼り付け痕 残る
2	4区SK1-4	土師器	甕	7.5YR7/6 橙色	7.5YR7/6 橙色	10YR8/3 浅黄橙色	粗粒砂を含む 密	良	ナデ	ナデ	残存高 4.0cm	
3	4区SK1-4	土師器	甕	7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	粗粒砂を含む 密	良	ナデ	ナデ	残存高 2.0cm	
4	4区SK2-3	土師器	甕	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR8/1 灰白色	10YR8/2 灰白色	細礫を含む 密	良	ハケメ	ナデ	残存高 4.3cm	
5	4区SK2-3	土師器	甕	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	10YR7/3 にぶい黄橙色	粗粒砂を含む 密	良	ナデ	ナデ	残存高 3.3cm	
6	4区SK2-3	須恵器	杯身	10Y5/1 灰色	10Y5/1 灰色	10Y5/1 灰色	密	良	回転ナデ	回転ナデ	残存高 1.7cm	
7	5区SK8	須恵器	杯身	N6/ 灰色	N6/ 灰色	N6/ 灰色	中粒砂を含む 密	良	回転ナデ ケズリ	回転ナデ	復元口径 10.8cm 器高 4.7cm	反転復元
8	5区SK8	須恵器	杯身	N6/ 灰色	N6/ 灰色	N6/ 灰色	粗粒砂を含む 密	良	回転ナデ ケズリ	回転ナデ	口径 12.9cm 器高 5.0cm	
9	5区SK8	須恵器	杯蓋	N6/ 灰色	N6/ 灰色	N6/ 灰色	粗粒砂を含む 密	良	回転ナデ ケズリ	回転ナデ	口径 14.4cm 器高 3.7cm	
10	5区SK8	須恵器	杯蓋	N6/ 灰色	N6/ 灰色	N6/ 灰色	粗粒砂を含む 密	良	回転ナデ ケズリ	回転ナデ	復元口径 14.0cm 器高 4.5cm	反転復元 外面 剥離多し
11	5.6区SD2 (西側)畦	土師器	壺	10YR8/2 灰白色	10YR8/2 灰白色	N3/ 暗灰色	細礫を含む 密	良	ナデ	ナデ	残存高 5.2cm	内面に粘土痕残る
12	SP61	土師器	甕	2.5Y7/3 浅黄色	2.5Y7/3 浅黄色	2.5Y6/1 黄灰色	中粒砂を含む 密	良	ナデ	ナデ	復元口径 12.0cm 残存高 2.0cm	反転復元
13	SP146	石製品	鏃								長さ(最大)2.4cm 幅(最大)1.6cm 厚み(最大)0.3cm 重量 0.9g	
14	4区遺構検出時	土師器	甕	10YR6/6 明黄褐色	10YR7/6 明黄褐色	10YR3/1 黒褐色	粗粒砂を含む 密	良	ハケメ	ナデ	復元口径 18.2cm 残存高 6.1cm	反転復元

第4章 総括

鴨田遺跡第28次調査の結果、柱穴、土坑、溝を検出した。中でも柱穴の数は群を抜き、150基を超える数を検出している。これらの柱穴は掘立柱建物跡を構成していたと考えられる。

しかし、調査地の中に残る作り出しの畦畔によって証明されるように、当地は耕作による削平を大きく受けている。そのため、遺構の残りも悪く、同様に柱穴の残りも悪い。よって、掘立柱建物の建っていた場所や柱穴の組み合わせも特定しにくい状況である。

柱穴の数から言って同時に建っていたとは考えられない程の混み具合であることや、切り合いがあることより、複数時期にわたって掘立柱建物が営まれていたと考えられる。

土坑（SK1～9）は、切り合いや出土遺物より掘立柱建物を構成していた柱穴より新しいと考えられる。

溝（SD1、2）は、土坑（SK8）に切られていることから土坑（SK8）より古い。また、石鏃が出土した柱穴（SP146）は溝（SD2）より古い時期に築かれている。

出土した遺物の総量はコンテナ5箱で、ほとんどが細片である。出土遺物の点数は2600点余りである。そのうちの出土比率を見ると土師器が全体の98パーセント（2567点）を占め、須恵器はわずか2パーセント（57点）しか出土していない。ほとんどの出土遺物が土師器である。

出土遺物の検討を行うと、柱穴から出土した遺物のほとんどが細片で時期特定が難しいが、ほとんどが土師器で、須恵器が出土している柱穴は3基（SP77、87、139）のみであることが判明した。また、土坑（SK8）からは6世紀中頃の須恵器が出土している。出土地点を見ても土師器は全体から出土しているのに対して須恵器は土坑や溝からの出土が中心で、柱穴から出土しているのはSP77、87、139の3基のみである。

上記の内容をまとめると、当該地は6世紀代の掘立柱建物を主とする集落が展開していたことになる。以前も調査において集落が北に広がることが想定されていた。耕作などによる土地の削平を受け、遺構の残りが悪い条件のなかでも当該地において多くの遺構を確認できたことは大きな成果といえる。

【参考文献】

- ・長浜市「長浜市史」第1巻 湖北の古代 1996
- ・長浜市教育委員会 長浜市埋蔵文化財調査資料第40集「大戊亥遺跡 鴨田遺跡」2002

図 版



調査前状況
(北から)



完掘状況全景（南上から）



遺構完掘状況 東部
(北から)



遺構完掘状況 中央部
(北から)



遺構完掘状況 西部
(北から)



遺構完掘状況 東部
(南から)



遺構完掘状況 中央部
(南から)



遺構完掘状況 西部
(南から)



SK1土層断面
(東から)



SK2土層断面
(南から)



SK3土層断面
(北から)



SK4土層断面
(北から)



SK5土層断面
(北から)



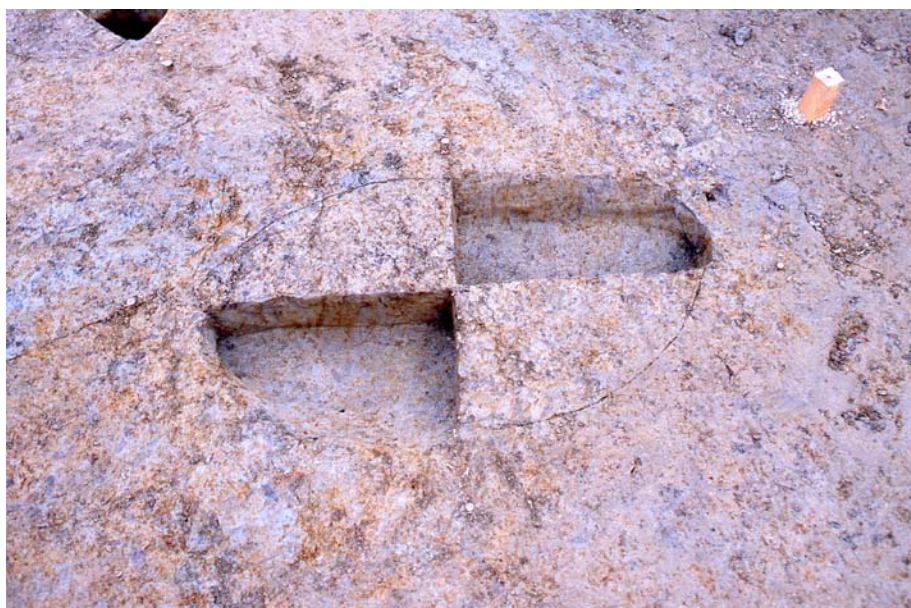
SK6土層断面
(東から)



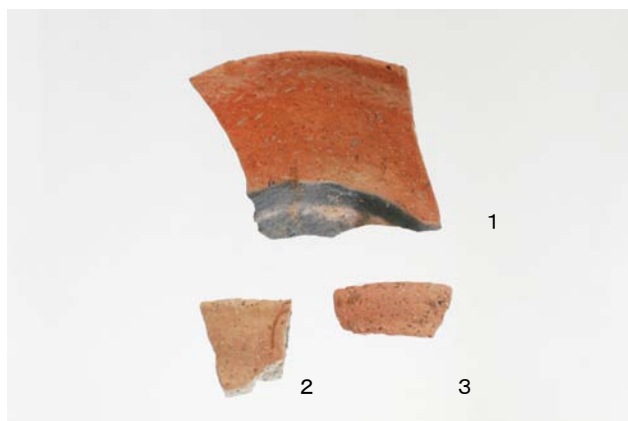
SK7土層断面
(西から)



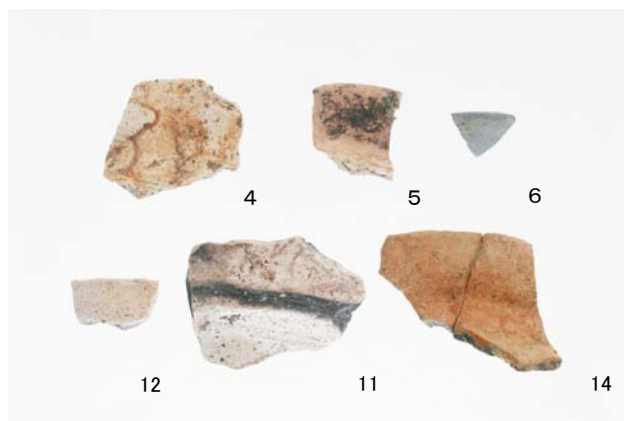
SK8土層断面
(南から)



SK9土層断面
(北から)



出土遺物 1



出土遺物 2



出土遺物 3



出土遺物 4



出土遺物 5



出土遺物 6



出土遺物 7

報 告 書 抄 録

ふ り が な	かもたいせきだい 28 じちょうさほうこくしょ						
書 名	鴨田遺跡第 28 次調査報告書						
副 書 名							
巻 次							
シ リ ー ズ 名	長浜市埋蔵文化財調査資料						
シ リ ー ズ 番 号	第 144 集						
編 著 者 名	牛谷好伸						
編 集 機 関	長浜市教育委員会						
所 在 地	〒526-8501 滋賀県長浜市高田町 12-34 TEL0749-62-4111						
発 行 年 月 日	西暦 2014 年 3 月						
所 収 遺 跡	所 在 地	市コード	北 緯	東 経	調 査 期 間	調査面積	調 査 原 因
鴨田遺跡 (28 次)	滋賀県長浜市 大成亥町 321 番 1	25-203	35° 22' 10"	136° 17' 15"	平成 25 年 10 月 21 日 ～平成 26 年 1 月 20 日	640 m ²	診療支援棟 建設工事
所 収 遺 跡 名	種 別	主 な 時 代	主 な 遺 構		主 な 遺 物	特 記 事 項	
鴨田遺跡	集落跡	弥生時代・古 墳時代	柱穴 溝 土坑		土師器 須恵器 石器 木製品		

2014 年 3 月 31 日

長浜市埋蔵文化財調査資料 第 144 集
鴨田遺跡 第 28 次調査報告書

編 集 滋賀県長浜市教育委員会

発 行 教育総務課 文化財保護センター

滋賀県長浜市東上坂町 981

TEL0749-64-0395 FAX0749-62-6357

株式会社シバタプロセス印刷